

ペタンク競技のご案内

petanque



① 施設・用具

①施設

ある程度硬い地面で砂利の混ざった敷地が理想的である。

ゲームに必要なスペースは長さ15m×幅4m。

②用具

●ボール

金属製(鉄・ステンレス)で中空。

直径 70.5mm~80mm

重量 650g~800g

●ビュット

直径約3cmの目標球。



② 概要

ペタンクは、1910年に南フランスの港町ラ・シオタで生まれたボールスポーツです。プロヴァンサルという助走をつけて投球するゲームが、全員が同じ場所から投球するようになり、ピエタンク(両足をそろえる)からペタンクになったと言われています。日本では1970年頃に紹介され、徐々に競技人口が増え、近年では全国各地で大会が開催されています。

競技はビュット(目標球)にボールを近づけることで得点を競うもので、一見単純に見えますが、高度なテクニックと戦略を要する奥の深い競技です。ゲームではたった1球で形成を有利にしたり、大量得点を取ったりするところに面白さがあります。

③ ルールの特徴

①基本動作

ペタンクの投球はアンダースローで行い、バックスピンをかけるために手の平を下にしてボールを離します。投球にはポワンテ(目標に寄せる)とティール(目標を弾き飛ばす)があります。

ポワンテには、低く転がして寄せる「ルーレット」、中間点に着地させて寄せる「ドウミポルテ」、ボールを高く上げて目標の近くに着地させる「ポルテ」があります。また、ティールは1球で複数の得点を取ることができるため、勝つためには欠かせない投球方法です。

②競技方法

対戦方式	一人のボール数	チームのボール数
シングルス	3球	—
ダブルス	3球	6球
トリプルス	2球	6球

- ジャンケンで先攻後攻を決め、先攻チームが地面に直径35~50cmの円(投球サークル)を描き、サークルの中から6~10m以内にビュットを投げる。
- 続いて先攻チームの選手はビュットの近くで止まるように第1球目を投げる。
- 次に後攻チームの選手も第1球目を投げる。
- 1球ずつ投げ終わった時点でビュットに近い方が勝っているため、ここからは負けている遠い方のチームが投球する。
- 負けているチームは、味方のボールが一番近くなるまで投球をし続けなければなりません。
※こうして勝っているチーム(ビュットが一番近いボールのチーム)は休み、負けているチームが投球を行う。
- 一方のチームの持ちボールがなくなったら、もう一方のチームも持ちボールを全て投げる。
- 両チームのボール全てを投げ終わったときに1メヌ(1セット)の終了。得点は負けているチームの一番近いボールよりも、勝っているチームのボールが何個近いのか、その数が得点となる。ボール1個が1点。
- 勝ったチームは、メヌ終了時のビュットを中心にサークルを描き、そこからビュットを投げて次のメヌを始める。メヌを繰り返し、お互いの取得点を加算していき、先に13点先取したチームが勝ちとなる。

③得点の取り方

得点を取るためには、ビュットに寄せるだけでなく、ボールの配置状況や残りボールの数により、様々な戦術が考えられます。

- ビュット手前にある味方ボールを押して近づける。
- 相手チームのボールをティールする。
- ビュットを移動させる。

★お問い合わせ

山口県ペタンク連盟

〒759-0207 宇部市際波666-2 橋本方

FAX 0836-44-1047

携帯 09013564280(橋本)事務局

★会費他

○各市区町村、都道府県組織

(入会金 円/年会費 円)

○公益社団法人日本ペタンク・ボール連盟：東京都新宿区

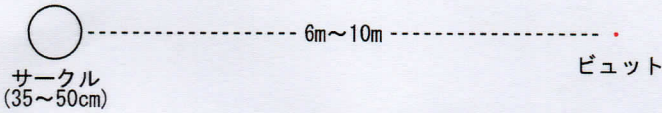
(入会金:2021年度 1,000円⇒0円、年会費 2,000⇒1,000円)

<参加挑戦できる大会>全国公認大会、日本ペタンク選手権大会他

<挑戦できる資格>上・中・初級指導員/A・B・C級審判員

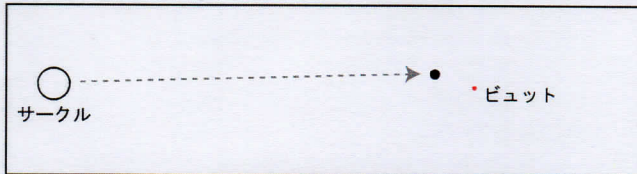
ペタンクゲーム図解

1 ジャンケンやトスで先攻チームを決め、その中の選手が地面に直径35~50cmのサークルを描く。次に先攻チームの選手が方向を決めてサークルの中からビュットを投げる。距離は6m以上10m以下であり、この範囲内にビュットが止まったときに競技の開始である。



2 続いて、先攻チームの選手はビュットの近くに止まるように第1球目を投げる。

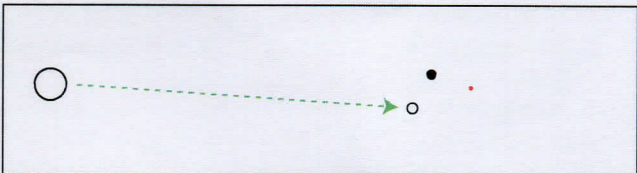
Aチーム ボール数 ●●●●●
Bチーム ボール数 ○○○○○○



※一人の投球数は決まっているが、チーム内での投球順番は決まっていない。

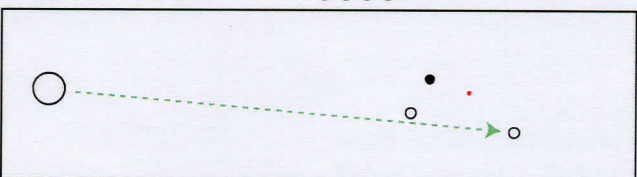
3 次に後攻チーム(Bチーム)の選手も第1球目を投げる。

Aチーム ボール数 ●●●●●
Bチーム ボール数 ○○○○○○



4 ビュットから見て近いボールのチームが勝っているのでここからは負けている遠い方のチームが次の投球をする。そのチームは味方のボールが一番近くなるまで投球をし続けなければならない。この場合、Bチームのボールが負けているので、Aチームのボールより近づくまで投球を行う。

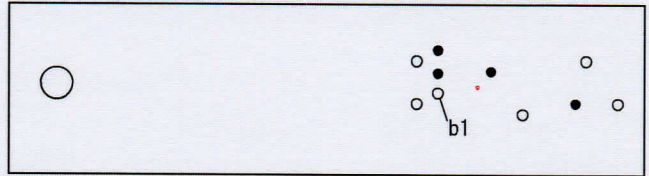
Aチーム ボール数 ●●●●●
Bチーム ボール数 ○○○○



※このように、以降の投球は、ビュットから遠い方のチームが投球を行う。

5 片方のチームの持ちボールがなくなったら、もう一方のチームも持ちボールを全て投げる。この場合、Bチームは全て投げ終わったが、Aチームが残り2球持っているので、Bチームのビュットに一番近い球(b1)より近づくように投げる。

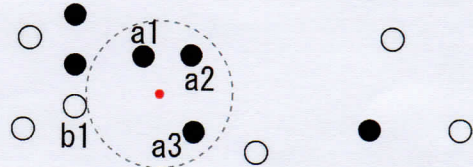
Aチーム ボール数 ●●
Bチーム ボール数 ○○○○○○



6 両チーム全て投げ終わったときが1メーヌ(1セット)の終了となる。得点の計算は次のとおりである。

得点を得るチーム：ビュットに一番近い球のチーム (Aチーム)

得点の数え方：負けているチーム(Bチーム)のビュットに一番近い球(b1)よりもAチームの近いボールの数が得点となる。



この場合、負けているBチームの一番近い球(b1)より、Aチームの球が3個(a1、a2、a3)近いので3点となる。

Aチーム：3点
Bチーム：0点

7 勝ったチームはメーヌの終了時のビュットの位置を中心にサークルを描き、そこからビュットを投げて次のメーヌを始める。このようにメーヌを繰り返して、お互いの得点を加算していき、13点先取したチームが勝ちとなる。

※どちらのチームのボールが近いか目測で判断できない場合は、メジャーを用いて計測を行う。

★目標への寄せ方

